



外国ルーツ青少年の教育スタート支援

第3回全体会議

日時：2023年12月20日（木）14時30分～16時30分

方法：Web 会議システムにより実施

目的と趣旨

本事業では、新規来日や再入国などの形で日本に暮らす外国ルーツ青少年が急増していることを受け、彼らが適切なタイミングに適切なサポートが受けられることで、教育を受ける権利を失うことのない仕組みづくりを目指すことを目的としています。

「外国ルーツ青少年が必要とする“初期適応支援”とは何か」をテーマにした第2回全体会議では、外国ルーツ青少年が来日後の初期段階における支援が重要であることと、初期段階に必要な支援内容としては、①日本で生活し、学習するための言語能力の土台作り、②子どもたちが安心して自分らしくいられる居場所/関係性の構築、③日本での生活やシステムへの適応をサポートすることが重要であることを共通認識として確認できました。

しかし、日本では「初期適応支援」という言葉は、各地域の教育委員会や自治体の担当課によって行われている初期段階における支援は、「学校教育の中で適応、そのための日本語教育の実施」として固定化されている現状があり、外国ルーツ青少年にとって適切なタイミングに適切な支援を行っていくという社会統合・包摂という視点に立った「包括的な初期適応支援」の在り方は、十分に議論されていません。

そこで、第3回全体会議においては、第2回会議での議論にて合意された内容を体制として具体化していくために、社会統合・包摂の視点に立った「初期適応支援」が目指すべき目標状態及びその達成のための支援体制作りには焦点を当て、従来の捉え方に立て替えられる「言葉」、「定義」を構想していく機会として、事業として成果発信に向けた共通認識を作っていきたいと考えています。

次第

全体進行 （公財）日本国際交流センター（JCIE）－ プログラム・オフィサー イ・スーイン

14:30～14:35 開会あいさつ

14:35～14:55 「より体系的な初期適応支援の仕組みづくりに向けて」

本来あるべき支援の在り方を考える（各10分）

矢崎理恵（福）さぼと2 1 学習支援室チーフコーディネーター・実施責任者

田中宝紀（特非）YSC 定住外国人支援事業部責任者

14:55～15:55 グループディスカッション

ディスカッションポイント

① 問題提起から考える、従来の「初期適応支援」の問題

- ② 外国ルーツ青少年の立場に立った「初期適応支援」が目指すべき目標状態
- ③ 目標状態の達成に向けて求められる支援体制（特に、国、自治体、教育行政、学校、NPO 等、支援に携わるべきステークホルダーの具体化とそれぞれの役割の具体化・明確化）

15:55~16:10 全体共有

16:10~16:20 クロージング